

非常災害対策マニュアル

施 設 名	特定非営利活動法人 VIDA		
事業所名	キッズ CAMP2nd・アミスター・第2 アミスター・第3 アミスター・第4 アミスター・ グランアミスター・プエンテ		
所 在 地	いわき市泉玉露3丁目13-13		
電話番号	0246-88-6370	FAX 番号	0246-88-6371

1 施設の立地条件

(1) 施設立地場所の地形等

平坦地・住宅地

(2) 災害危険区域等の該当の有無

災害危険区域等	該当の有無	区域等の名称
洪水浸水想定区域	有	
土砂災害警戒区域	無	
土砂災害特別警戒区域	無	
内水	有	

(3) 予測される災害の危険性

地震・火災・洪水・内水

2 避難を開始する時期、判断基準

- ・土砂災害警戒情報が発表されたとき
- ・震度5以上の地震が発生したとき

3 避難場所

災害の種類	地震	火災	洪水・内水
避難場所	玉露中央公園	玉露中央公園	施設2階
所要時間	1分	1分	
距離	100M	100M	

災害発生時

火災

【安全確保】

〈職員の行動〉

- ・ 出口の確保
- ・ 消火作業
- ・ 児童の誘導
- ・ 状況に応じて消防署へ通報

〈児童への対応〉

- ・ パニックにならないよう声掛けをし、移動準備をする

地震

【安全確保】

〈職員の行動〉

- ・ 出口の確保
- ・ 的確な指示(机の下に隠れて・落ち着いて等)
- ・ 落下物がない場所に児童を集める
- ・ 火災等 2 次災害の防止

〈児童への対応〉

- ・ 机の下等に隠れるように促す、姿勢を低くさせる
- ・ 揺れが落ち着いたら、職員のそばに集まるよう声掛けをする
- ・ パニックにならないように、声をかけ安心させる

内水・洪水

【安全確保】

〈職員の行動〉

- ・ 屋外の状況確認
- ・ 的確な指示(施設 2 階へ移動を促す)
- ・ 1 階に取り残された児童がいないか確認する

〈児童への対応〉

- ・ 水筒等持てるものを各自で持つように促す
- ・ パニックにならないように、声をかけ安心させる

【安全な場所へ避難】

＜職員の行動＞

- ・的確な指示
- ・避難経路の安全確認
- ・大きな声で児童全員が分かるように避難指示
- ・施設内に児童がいらないか大声で声掛けをする

＜児童への対応＞

- ・避難の指示
- ・静かにさせる
- ・安心するように声掛けをする

【避難後の対応】

＜職員の行動＞

- ・施設ごとに、人員点呼と安否確認
- ・負傷者の確認と応急処置
- ・関係機関への連絡

【保護者への連絡】

＜職員の行動＞

- ・状況、避難場所を知らせる(コドモンまたは電話)
- ・災害伝言ダイヤル『171』の利用

災害伝言ダイヤル

N T T災害伝言ダイヤルは、地震等の災害発生時に、災害地への通信が増加し、電話がつながりにくい状況になった場合にサービスが稼働されます。

地震発生後にテレビやラジオなどで、【171】サービス開始の報道があり、その後利用することができます。事前契約は不要で、あらゆる電話での利用が可能です。

～災害用伝言ダイヤル～

【伝言の録音】

- ① 『171』にダイヤルする
- ② ガイダンスが流れる
- ③ 『1』を押す
- ④ 施設の電話を市外局番からダイヤルする
- ⑤ メッセージを録音する

【伝言の再生】

- ① 『171』にダイヤルする
- ② ガイダンスが流れる
- ③ 『2』を押す
- ④ 施設の電話を市外局番からダイヤルする
- ⑤ メッセージを再生する

4 送迎時

- ・送迎時間中に大規模災害が発生した場合 室内待機スタッフは情報収集に努めるとともに、送迎職員又は保護者からの連絡に備えて室内で待機する。
※避難指示（緊急）が発令された場合は、その指示に従う。
- ・車両でお迎えに向かっている途中で大規模災害が発生した場合は、すぐに安全な場所に車両を停車させ、情報収集に努めるとともに、既に乗車している児童及び自身の安全確保を最優先する。
- ・送迎職員は車両を安全な場所へ移動させてラジオで情報収集するとともに、必要に応じて近隣の学校等の公共施設に避難する。避難先の指示に従う。
- ・可能なら電話、回線混雑で通話不能な場合は SMS 等で連絡を入れる。
※避難先・乗車している児童の名前、状況を伝える。
- ・学校へのお迎え等で利用児童の来所時間が異なるが、下校前のお子様に関しては、安全面からも学校での待機、保護者の方のお迎えとする。

非常災害対策マニュアル

施設名	特定非営利活動法人 VIDA		
事業所名	泉キッズ CAMP・ポコアポコ・ソンリッサ		
所在地	いわき市泉玉露 6 丁目 18-21 いわき市泉玉露 6 丁目 18-22 メゾン玉露 I 101・102・103・105		
電話番号	0246-88-6370	携帯番号	070-5084-0591
FAX 番号	0246-88-6371		

1 施設の立地条件

(1) 施設立地場所の地形等

平坦地・住宅地

(2) 災害危険区域等の該当の有無

災害危険区域等	該当の有無	区域等の名称
洪水浸水想定区域	有	
土砂災害警戒区域	無	
土砂災害特別警戒区域	無	
内水	有	

(3) 予測される災害の危険性

地震・火災・洪水・内水

2 避難を開始する時期、判断基準

- ・土砂災害警戒情報が発表されたとき
- ・震度 5 以上の地震が発生したとき

3 避難場所

災害の種類	地震	火災	洪水・内水
避難場所	玉露中央公園	玉露中央公園	施設 2 階
所要時間	6 分	6 分	
距離	500M	500M	

災害発生時

火災

【安全確保】

〈職員の行動〉

- ・ 出口の確保
- ・ 消火作業
- ・ 児童の誘導
- ・ 状況に応じて消防署へ通報

〈児童への対応〉

- ・ パニックにならないように、声掛け安心させる

地震

【安全確保】

〈職員の行動〉

- ・ 出口の確保
- ・ 的確な指示(机の下に隠れて・落ち着いて等)
- ・ 落下物がない場所に児童を集める
- ・ 火災等 2 次災害の防止

〈児童への対応〉

- ・ 机の下等に隠れるように促す、姿勢を低くさせる
- ・ 揺れが落ち着いたら、職員のそばに集まるよう声掛けをする
- ・ パニックにならないように、声をかけ安心させる

内水・洪水

【安全確保】

〈職員の行動〉

- ・ 屋外の状況確認
- ・ 的確な指示(施設 2 階へ移動を促す)
- ・ 1 階に取り残された児童がいないか確認する

〈児童への対応〉

- ・ 水筒等持てるものを各自で持つように促す
- ・ パニックにならないように、声をかけ安心させる

【安全な場所へ避難】

＜職員の行動＞

- ・ 的確な指示
 - ・ 避難経路の安全確認
 - ・ 大きな声で児童全員が分かるように避難指示
 - ・ 施設内に児童がいないか大声で声掛けをする
- ※地震・・・中央公園へ移動後、安全を確認後3丁目の施設へ移動
- ※火災・・・3丁目の施設へ移動

＜児童への対応＞

- ・ 避難の指示
- ・ 静かにさせる
- ・ 安心するように声掛けをする

【避難後の対応】

＜職員の行動＞

- ・ 施設ごとに、人員点呼と安否確認
- ・ 負傷者の確認と応急処置
- ・ 関係機関への連絡

【保護者への連絡】

＜職員の行動＞

- ・ 状況、避難場所を知らせる(コドモンまたは電話)
- ・ 災害伝言ダイヤル『171』の利用

災害伝言ダイヤル

NTT災害伝言ダイヤルは、地震等の災害発生時に、災害地への通信が増加し、電話がつながりにくい状況になった場合にサービスが稼働されます。

地震発生後にテレビやラジオなどで、【171】サービス開始の報道があり、その後利用することができます。事前契約は不要で、あらゆる電話での利用が可能です。

～災害用伝言ダイヤル～

【伝言の録音】

- ① 『171』にダイヤルする
- ② ガイダンスが流れる
- ③ 『1』を押す
- ④ 施設の電話を市外局番からダイヤルする
- ⑤ メッセージを録音する

【伝言の再生】

- ① 『171』にダイヤルする
- ② ガイダンスが流れる
- ③ 『2』を押す
- ④ 施設の電話を市外局番からダイヤルする
- ⑤ メッセージを再生する

4 送迎時

- ・送迎時間中に大規模災害が発生した場合 室内待機スタッフは情報収集に努めるとともに、送迎職員又は保護者からの連絡に備えて室内で待機する。
※避難指示（緊急）が発令された場合は、その指示に従う。
- ・車両でお迎えに向かっている途中で大規模災害が発生した場合は、すぐに安全な場所に車両を停車させ、情報収集に努めるとともに、既に乗車している児童及び自身の安全確保を最優先する。
- ・送迎職員は車両を安全な場所へ移動させてラジオで情報収集するとともに、必要に応じて近隣の学校等の公共施設に避難する。避難先の指示に従う。
- ・可能なら電話、回線混雑で通話不能な場合は SMS 等で連絡を入れる。
※避難先・乗車している児童の名前、状況を伝える。
- ・学校へのお迎え等で利用児童の来所時間が異なるが、下校前のお子様に関しては、安全面からも学校での待機、保護者の方のお迎えとする。